



生化学工業株式会社

(証券コード：4548)

糖質科学で未来を創る

Exploring the Innovative Promise of Glycoscience



第71期
中間報告書

2016年4月1日～2016年9月30日

中期経営計画の重点戦略を着実に推し進め 「10年ビジョン達成と更なる飛躍」の実現を目指します

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、2009年3月に策定した「生化学工業10年ビジョン」のもと、糖質科学分野に研究開発の焦点を絞り、国際競争力を確立する『グローバル・カテゴリー・ファーマ』としての発展を目指しています。

この一環として当期より「ACT for the Vision ～10年ビジョンの達成と更なる飛躍～」をキーコンセプトとする中期経営計画(2016年度～2018年度)に取り組んでいます。4つの重点戦略として掲げる①「腰椎椎間板ヘルニア治療剤SI-6603の確実な進展」、②「変形性ひざ関節症市

場におけるリーディングカンパニーとしての進化」、③「開発パイプラインの充実」、④「最適な生産・品質管理体制の追求」を推し進めることで、事業環境の厳しさをはねのけ、『グローバル・カテゴリー・ファーマ』として勝ち残り、更なる飛躍につなげていきます。

なお、SI-6603につきましては、当期中の国内承認取得は厳しい状況にあります。引き続き全社一丸となって努力してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、引き続き一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

水谷 建

糖質科学で未来を創る

生化学工業は、糖質科学に研究開発の焦点を合わせ、独創的な医薬品の創製を通じて、世界の人々の健康で心豊かな生活に貢献しています。

糖質科学とは

糖鎖や複合糖質を研究する科学分野です。近年、多くの病気と糖鎖との関係について解明が進展しています。糖質科学の研究が進むことで、新しい治療法や診断法の開発につながることを期待されています。

糖質科学を専門分野とする
研究開発型製薬企業

研究開発・製造に特化した
ビジネスモデルを展開

GAG※に関する
最先端の技術力

※GAG:グリコサミノグリカン(複合糖質の構成成分のひとつ)

連結業績概況

ハイライト

当中間期：2016年4月1日～2016年9月30日
前中間期：2015年4月1日～2015年9月30日

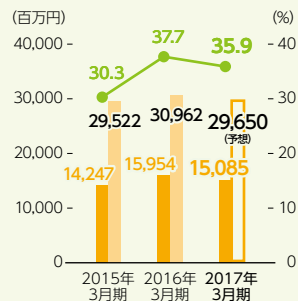
(百万円)

科目	当中間期	前中間期	増減率
売上高	15,085	15,954	-5.4%
営業利益	783	2,050	-61.8%
経常利益	1,376	2,575	-46.5%
四半期純利益	1,013	1,941	-47.8%
研究開発費	4,109	3,749	+9.6%

売上高は、米国ジェル・ワンや国内医薬品の数量が増加した一方で、円高や国内における薬価引き下げの影響を受け、減収となりました。

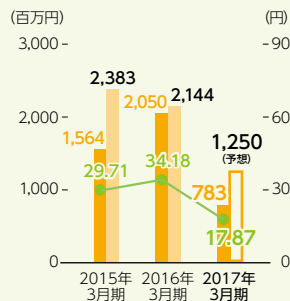
営業利益は、円高や薬価引き下げに伴う原価率の上昇に加え、米国におけるSI-6603のオープン試験進展等に伴い研究開発費が増加したことから、減益となりました。経常利益および四半期純利益は、受取ロイヤリティーを計上した一方で、投資有価証券売却益の減少や為替評価損発生などにより減益となりました。

売上高/海外売上高比率



売上高：■ 中間期 □ 通期
海外売上高比率：● 中間期

営業利益/1株当たり純利益



営業利益：■ 中間期 □ 通期
1株当たり純利益：● 中間期

事業部門別概況

医薬品事業

ヒアルロン酸を主成分とした医療用医薬品・医療機器の製造・販売を展開する、当社のコア事業です。

売上高構成比

81.4%



■ 当中間期の業績

国内医薬品 売上高85億1千8百万円(前中間期比2.2%減)

関節機能改善剤アルツは、市場全体がほぼ横ばいで推移するなか、新容器の市場投入に伴う販売提携先の積極的な販促活動により、医療機関納入本数が微増となりましたが、当社売上は薬価引き下げの影響を受け減少しました。

眼科手術補助剤オベガン類は、2016年7月に発売したシェルガンが好調な立ち上がりを示しており、医療機関納入本数が増加しました。当社売上は数量増により薬価引き下げの影響をカバーし、微増となりました。

LAL事業

医薬品・医療機器の品質管理に使用されるエンドトキシン測定用試薬などの製造・販売を国内外で展開しています。

売上高構成比

18.6%



■ 当中間期の業績

売上高28億3百万円(前中間期比1.8%増)

円高の影響を、国内外におけるエンドトキシン測定用試薬等の増加でカバーし、増収となりました。



財務諸表など業績に関する詳細は、当社Webサイトの「株主・投資家向け情報」でご覧いただけます。

<http://ir.seikagaku.co.jp/> (決算説明会の動画も視聴できます。)

内視鏡用粘膜下注入材ムコアップは、販売提携先変更に伴う在庫積み増し等があり、当社売上は増加しました。

海外医薬品 売上高32億2千7百万円(前中間期比15.7%減)

米国における単回投与の関節機能改善剤ジェル・ワンは、現地販売が堅調に伸びており、当社売上も円高の影響をカバーして増加しました。引き続き、販売提携先の活動支援に注力し、更なる売上拡大を目指していきます。

5回投与の関節機能改善剤スパルツFXは、複数回投与製品の競合環境が引き続き厳しいことから、米国現地販売は微減となりました。当社売上は、前年同期に出荷が集中した反動や、円高の影響を受け減少しました。

中国向けアルツは、政府の価格抑制策等による現地販売の減少が続いており、当社売上は円高の影響もあり減少しました。

医薬品原体 売上高5億3千6百万円(前中間期比18.9%減)

コンドロイチン硫酸は前年同期並みとなりましたが、ヒアルロン酸の競合が激しいことから売上高は減少しました。

関節機能改善剤

アルツ®

アルツディスポ®

Gel-One®
(ジェル・ワン)

SUPARTZ FX®
(スパルツFX)



アルツディスポ®
関節注25mg



Gel-One®
(ジェル・ワン)



SUPARTZ FX®
(スパルツFX)

通期の業績見通し

科 目	2017年3月期		増 減 率
	修正予想	期首予想	
売 上 高	29,650	29,550	+0.3%
営 業 利 益	1,250	1,000	+25.0%
経 常 利 益	2,650	3,350	-20.9%
当 期 純 利 益	2,000	2,550	-21.6%
研 究 開 発 費	7,850	8,400	-6.5%

2016年5月12日に発表した2017年3月期連結業績予想を修正しました。

売上高は、海外医薬品やLAL事業における円高の影響を国内医薬品の堅調な推移で補い、前回予想並みとなる見込みです。

営業利益は、研究開発費を中心とした経費見直しにより、前回予想を上回る見通しです。一方、経常利益および当期純利益は、受取ロイヤリティーの減少や、為替評価損の増加により前回予想を下方修正しました。

※中間期以降の連結業績予想の為替レートは、対米ドル110円から103円に変更しています。

研究開発活動

生化学工業は、専門分野としている糖質科学に研究開発の焦点を合わせて、新製品の早期かつ継続的な上市を実現するために、対象物質や重点疾患を絞り込んだ効率的な活動を推進するとともに、内外の研究開発ネットワークの強化にも努めています。

開発パイプラインリスト

開発コード・物質名	適応症	開発地域	第Ⅰ相	第Ⅱ相	第Ⅲ相	申請
SI-6603 コンドリアーゼ	腰椎椎間板ヘルニア	日本 米国				●
SI-614 修飾ヒアルロン酸	ドライアイ	米国		●	●	
SI-613 NSAID結合ヒアルロン酸	変形性ひざ関節症	日本		●		

腰椎椎間板 ヘルニア治療剤 SI-6603

日本において、2017年3月中の承認取得を目指しておりましたが、品質管理に関する審査対応に想定よりも時間を要しており、当期中の承認取得は厳しい状況にあります。引き続き、承認取得に向けて努力してまいります。

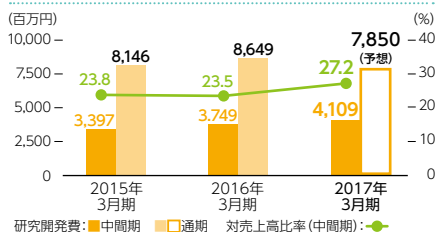
海外において、日本を除く全世界を対象とした独占開発・販売に関するライセンス契約をフェリング・ファーマシューティカルズ社と2016年8月に締結しました。なお、米国では第Ⅲ相臨床試験段階として二重盲検試験および安全性評価を主目的としたオープン試験を実施しています。

経営資源を集中的に投入

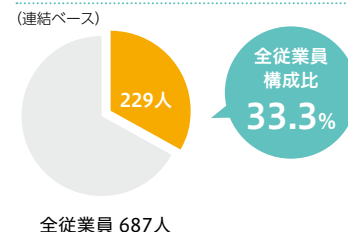
研究開発型製薬企業である当社は、独創的な医薬品および医療機器などの継続的な創製に取り組むため、経営資源を研究開発に集中的に投入しています。

当中間期の研究開発費は、米国SI-6603のオープン試験が進展したことに伴い増加しました。

研究開発費 4,109百万円 (当中間期)



研究開発要員 229人 (2016年9月30日現在)



配当に関する基本方針

	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
1株当たり年間配当金	26.0円	26.0円	26.0円(予想)
【内訳】	中間配当金	13.0円	13.0円
	期末配当金	13.0円	13.0円(予想)
配当性向	40.5%	57.3%	73.7%(予想)

中長期的な視点に立ち、安定的かつ継続的な配当を目指し、1株当たり年間26円を継続する方針です。

会社概要 (2016年9月30日現在)

社名 生化学工業株式会社
創立 1947年(昭和22年)6月2日
資本金 38億4,040万円
従業員数 687名(連結ベース)
事業所 中央研究所
CMC研究所
久里浜工場
高萩工場
主な子会社 ASSOCIATES OF CAPE COD, INC.
(アソシエーツ オブ ケープ コッド インク)
役員 代表取締役社長 水谷 建 常勤監査役 佐倉 義幸
代表取締役専務取締役 矢倉 俊紀 常勤監査役 竹田 徹
取締役 常務執行役員 宮本 政臣 社外監査役 竹内 信博
社外取締役 片山 英二 社外監査役 柴田 義人
社外取締役 林 いづみ 社外監査役 藤本 美枝

株式の状況 (2016年9月30日現在)

発行可能株式総数 234,000,000株
発行済株式の総数 56,814,093株
株主数 11,488名

※2016年5月31日付の自己株式消却により発行済株式の総数が1,770,000株減少しました。

大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持比率(%)
1 新業株式会社	7,843	13.9
2 株式会社開生社	7,293	12.9
3 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,264	4.0
4 みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	1,973	3.5
5 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1,881	3.3
6 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,550	2.7
7 株式会社三菱東京UFJ銀行 ザバンク オブ ニューヨーク メロン (インターナショナル) リミテッド 131800 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	1,357	2.4
9 科研製薬株式会社	1,207	2.1
10 ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505001(常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	1,059	1.9

※持株比率は自己株式(209千株)を控除して計算しています。

所有者別株式分布状況



株主メモ

■ 事業年度

4月1日～翌年3月31日

■ 定時株主総会

6月

■ 配当金受領株主確定日

3月31日(なお、中間配当を行う
場合の確定日は9月30日)

■ 基準日

定時株主総会については、3月31日
その他必要があるときは、
あらかじめ公告する一定の日

■ 株主名簿管理人/特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

《株式事務に関するお問い合わせ》

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081

東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL:0120-232-711(フリーダイヤル)
ホームページアドレス

<http://www.tr.mufj.jp/daikou/>

《住所変更等のお手続》

株主さまのお取引の証券会社

ただし、特別口座に登録された株式に関するお手続は

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部(左記)で受け付けます。

《未払配当金受領のお手続》

三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店

■ 公告方法

電子公告掲載ホームページアドレス

<http://ir.seikagaku.co.jp/ja/kk.html>

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による
公告をすることができない場合は、日本経済新聞に公告します。



生化学工業株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目6-1
丸の内センタービルディング
TEL: 03-5220-8950

<http://www.seikagaku.co.jp/>



本冊子は、FSC®認証紙を使用し、「Non-VOC」の大豆油を主体とした植物油系インキを使い、印刷しています。